

1. ひたちなか市の概要

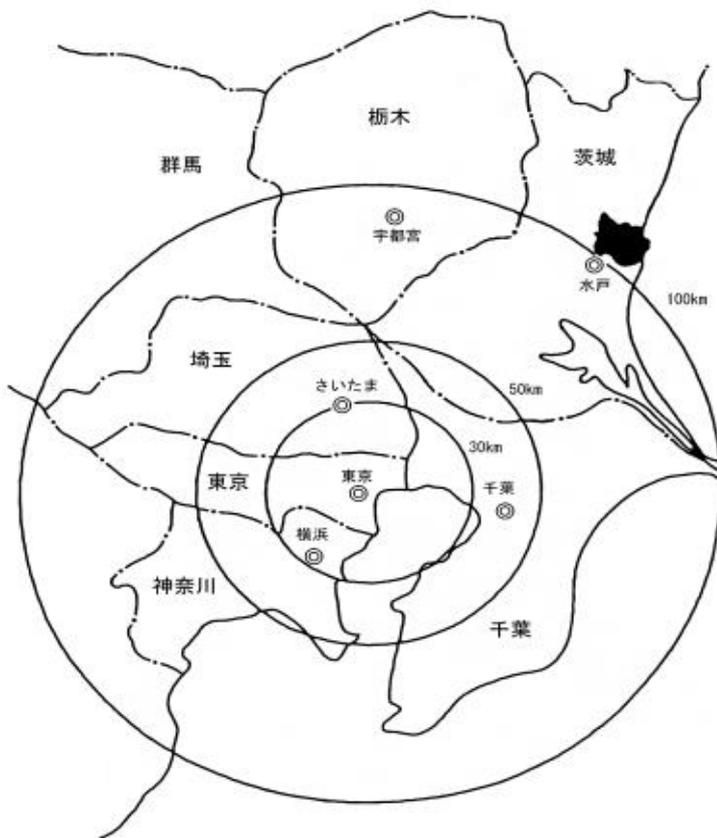
ひたちなか市は、東京から約110kmの距離にあり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、東西約13km、南北約11kmで101.02km²の面積を有している。

ひたちなか市の位置					
方位	東経	北緯	方位	東経	北緯
東端	140° 37' 39"	36° 22' 51"	西端	140° 28' 55"	36° 24' 13"
南端	140° 35' 21"	36° 20' 09"	北端	140° 31' 47"	36° 27' 48"

資料：国土地理院

西は常磐自動車の通る那珂市に、北は東海村に、南は那須岳を源流とする那珂川を挟んで県都水戸市と大洗町に接し、東は美しい碧の海の広がる太平洋に面して約13kmの海岸線が続いている。

市域は、太平洋と那珂川下流域に位置する海拔7m前後の低地地区と阿武隈山系から南東に緩やかに傾斜している那珂台地と呼ばれる海拔約30m前後の起伏の少ない平坦な台地地区とに分けられる。低地地区は、漁港を中心に市街地が形成され、那珂川流域は水田地帯となっている。一方、台地地区は、駅を中心に市街地が形成され都市化が進行しているが、周辺は畑地も多く、また、中小河川が市街地にくさび状に入り込み、台地縁辺部は豊かな緑が帯状に連なっている。



ひたちなか市位置図

気候は、典型的な東日本の太平洋型の気候で、台風などによる自然災害も少なく、年間平均気温は16度、最高気温は37度前後、最低気温はマイナス10度を下回ることはない。降水量は月平均で100mm前後、降雪は数えるほどである。

令和7年10月1日現在の人口は152,136人で、水戸市、つくば市、日立市に続く茨城県下4番目の規模の都市である。

交通は、本市から群馬県高崎市までの150kmをつなぐ、北関東自動車道が平成23年3月に全線開通した。都市間を結ぶ主要幹線道路としては、国道6号、国道245号がある。

鉄道は、JR常磐線を主軸に、水戸線、水郡線が接続している。常磐線の上野―勝田間の所要時間は、特急で約70分である。さらに、平成27年3月には、上野東京ラインが開業し、東京、品川駅までの乗り入れが可能となった。

また、平成20年4月に第三セクターとして開業したひたちなか海浜鉄道湊線が勝田駅と那珂湊駅、阿字ヶ浦駅を結んでいる。

産業は、勝田地域では、電機、機械、精密機器、紙製品などの工業を、那珂湊地域は水産加工業を主体とした食品製造関係水産業を基幹として発達してきた。

これら既存の産業に加え、ひたちなか地区への企業の立地が進んでおり、今後県内有数のものづくりのまちとして躍進していくことが期待されている。

また、市内には、二つの漁港があり、近海沿岸漁業の基地となっている。農業では、ほしいものが特産品となっており、日本一の生産量を誇っている。商業面は、大規模小売店舗の充実などで商圈の地元吸収力が増大している。また、国営ひたち海浜公園や阿字ヶ浦海水浴場、那珂湊おさかな市場などの資源を存分に活かし、観光・レクリエーションの振興を図っているところである。

現在、1,182haのひたちなか地区開発の中核施設として建設中である重要港湾「茨城港常陸那珂港区」は、平成12年4月に北ふ頭の外国貿易ふ頭が供用開始となり、その後も着々と整備が進められている。平成28年4月には、中央ふ頭において水深12m耐震強化岸壁が、そして令和5年2月には、水深12m岸壁の2バース目が全面供用開始され、国内外の物流の拠点として更なる活躍が期待される。

この他、ひたちなか地区には、ひたちなか市総合運動公園、自動車安全運転センターやひたちなかテクノセンター、大規模商業施設などが立地している。

このような拠点開発により、国内外から多くの人、物、情報が交流する国際港湾公園都市を目指している。